

第 10 回安曇野市総合計画審議会 会議概要

1	審議会名	第 10 回安曇野市総合計画審議会
2	日 時	平成 19 年 5 月 11 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで
3	会 場	堀金総合支所 3 階 301 会議室
4	出席者	糸長会長、望月副会長、会田委員、河村委員、鈴木委員代理、米倉委員、 鎌田委員代理、仁科委員代理、等々力委員、腰原委員、曾根原委員、岩淵委員、 古岩井委員、佐藤委員、岡村委員、伊藤委員、百瀬委員、三原委員、望月委員
5	市側出席者	土肥企画財政部長、二木企画政策課長、横山課長補佐、宮沢企画員、 青木企画員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 1 人
8	会議概要作成年月日	平成 19 年 5 月 14 日
協 議 事 項 等		
1	会議概要	(1) 開 会 (望月副会長) (2) 委嘱書の交付 (3) 市長あいさつ (4) 自己紹介 (5) 議 事 ① 平成 18 年度の経過及び 19 年度の予定について ② 将来像について ③ 市の木(樹)・花について ④ 専門部会の設置及び構成について ⑤ その他 (6) 閉 会 (望月副会長)
2	審議概要	① 平成 18 年度の経過及び 19 年度の予定について 事務局：資料説明 会 長：第 14 回審議会の内容にある市民意見とは何か。 事務局：パブリックコメントを予定しています。 ② 将来像について 事務局：将来像の事務局案として『北アルプスに育まれ ころろ輝く 田園都市 安曇野』を提案説明。 委 員：市議会への説明内容はどのような内容ですか。 事務局：本日と同じ資料で同じ説明内容です。 会 長：地元の言葉(方言)や「ふるさと」という言葉を使ってはどうか。 委 員：安曇野は田園都市でもあり、ふるさとでもある。この事務局案で良いと思う。 委 員：短い形で述べられているので、これでいいと思うが、安曇野市を作り上げていく何かほしかった。方言には誇りと、ある意味でのコンプレックスもあるので、方言を使うこ

とは良いとは思えないので、事務局案でいいと思う。

委員：「北アルプスに育まれ」には水や堰で人々が育まれてきていることが込められているので、良いと思う。「こころ輝く」の解説には歴史文化の進展や輝きも加えてほしい。

副会長：現在作業を進めている市民憲章の作成とそう違いはない。将来像はこれで良いと思うが「こころ輝く」というところが気になる。

委員：「こころ輝く」は新しい使い方だと思うので、もっと新しい使い方をしてもいいと思う。安曇野を表すものがここには含まれていると思う。

委員：市議会への説明はもう少し決まってからでも良かったと思う。

事務局：市議会へは経過報告として説明をしている。

会長：審議会としては納得しがたい。

事務局：市議会の意見を聞いたという経過です。

会長：審議会ですら最初に論議をしたかった。

将来像についてはこれで進めていくものとする。

③ 市の木(樹)・花について

事務局：審議会の検討結果として、市の花は「ワサビ」市の木は「ケヤキ」を市に報告することにした。

〔特に意見なし〕

会長：(案)をとって、選考結果とする。また補足意見は付帯意見とする。

④ 専門部会の設置及び構成について

事務局：資料説明。

〔特に意見なし。3部会に委員を分け、それぞれの部会長及び副部会長を選出〕

⑤ その他

○市民憲章起草部会からの報告

部会長：次回、原案を出せると思う。

〔特に意見なし〕

○田園都市「安曇野」での暮らしについて

委員：健康福祉のところで高齢者に対するとらえ方が必要と思う。また地域ぐるみによる取り組みが大事なので、具体的な名称(例：民生委員)は表記しなくてもよいと思う。

委員：安心して安曇野に定住できるという方向性があるのもいいと思う。また住民同士の交流で景観を守っていくことも大事だと思う。

委員：安曇野ブランドとして「暮らし」もブランドになるので、そのイメージを出してほしい。

会長：新しいライフスタイルをつくり発信していくことになる。強調していくことが重要と思う。

地球環境問題やエネルギーという視点もほしい。また行政と市民、企業、NPOとの連携が明確にならないといけないので、それぞれの分野で行政の柱がほしい。

○単身世帯について

事務局：高齢者の単身世帯数については、「ひとり暮らし台帳」の登録者数(約1,500人)と、

国勢調査結果（約 1,900 人）との差があるが、調査方法の相違と理解いただきたい。
〔特に意見なし〕

事務局：次回の第 11 回審議会は、5 月 25 日開催。